

授業科目	言語学 I (音声学・形態論)				
担当者	松井 理直				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

日本語音声・音韻の特徴を詳細に解説します。

■ 到達目標

日本語の音声・音韻について習熟し、構音障害などを分析できる知識を身につけることを目指します。

■ 授業計画

- 第1回 言語学・音声学の基礎
- 第2回 記号の哲学的性質
- 第3回 調音の基本
- 第4回 調音位置と調音方法
- 第5回 国際音声記号の基本
- 第6回 国際音声記号と ST が用いる発音記号の相違点と注意点
- 第7回 日本語分節音の基本
- 第8回 日本語の母音
- 第9回 日本語の子音：共鳴音
- 第10回 日本語の子音：阻害音
- 第11回 分節音の構造：モーラと音節
- 第12回 日本語の音調について
- 第13回 日本語諸方言のアクセント
- 第14回 音声学と音韻論
- 第15回 日本語音韻論の例

■ 評価方法

学期末のテストで評価を行う。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習時間は90分程度。復習時間は個人の理解度によるが、1時間程度。

■ 教科書

書 名：言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版
 著者名：今泉敏（編）
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：日本語音声学入門
 著者名：斎藤純男
 出版社：三省堂

■ 留意事項

質問などは大歓迎です。授業中に分からないことがあれば、必ずその場で質問をするようにしてください。新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

対面授業の場合、事前に web 上で予習を行い、対面授業中は質疑応答を行うという形の反転授業を用いることがあります。